

低侵襲手術 ロボット支援下手術

天白区 の ダビンチ



サージョンコンソール



パシエントカート



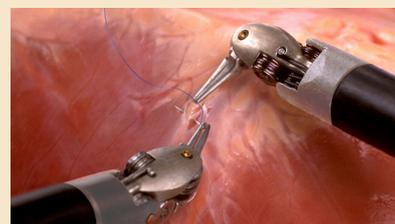
ビジョンカート



ここでコントロール



連動して細やかに正確に駆動



こんな風に見えています

ダビンチとは

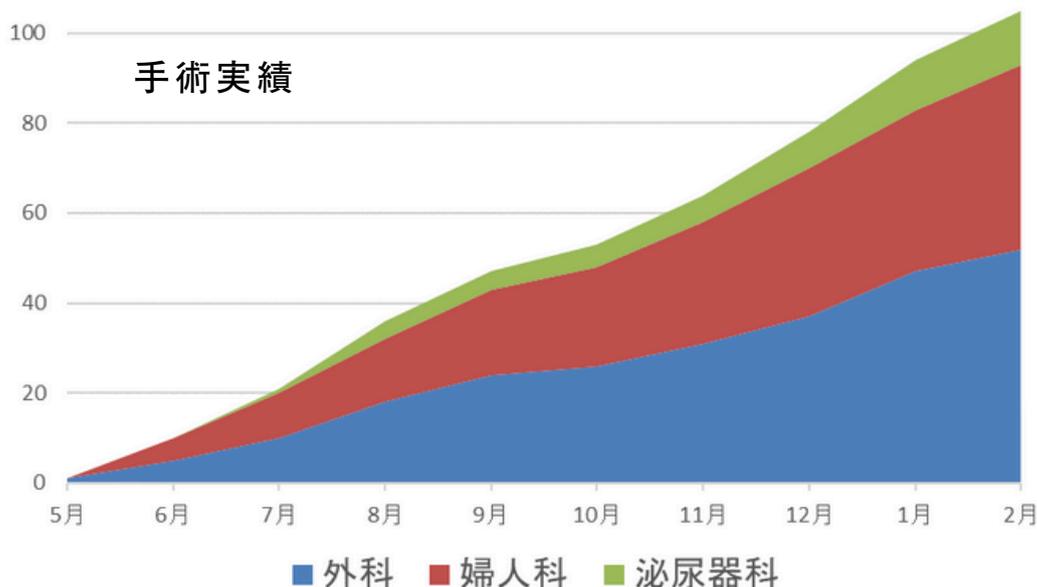
Intuitive Surgical社が販売する手術支援ロボット装置です。

ロボット支援手術の大きなメリットは、身体的な負担が少ない腹腔鏡下手術の特長を活かしながら、人の手による手術の問題点をロボットの機能で克服できるという点にあります。開腹手術よりも低侵襲で、入院期間を短縮することができ、より正確な手術が可能となります。

患者さんにとってより優しく、メリットのある手術手法です。

名古屋記念病院で実施しているダビンチ手術と実績 2024年2月集計時

- 外科 結腸、直腸
 - 婦人科 子宮腫瘍（良性）
 - 泌尿器科 前立腺癌
- 2023年5月30日に初症例、2024年2月9日に100例目の手術を経験しました。
その後も順調に症例を重ねています。



ダビンチチーム



100例を記念して
より優しい手術を目指し、決意を新たに!

地域で最狭なダビンチ手術室かも? 逆にチーム力UP!?

名古屋記念病院は建築されてから約40年が経過しており、手術室も近代的な広くて快適な手術室とはいいがたい部分があります。

導入前の事前調査では、担当事務員が「いろいろ調べてみたところ、ひょっとしたら愛知県下で最も狭いダビンチ手術室になるかも。。。との発言!

ダビンチは、3つの大きな機械で構成される装置であるため、患者さんに合わせてセッティングするには、慎重さと医療スタッフ間の連携が求められます。操作にあたっては様々な手順があり、手術にかかわる医療スタッフがこれらを把握し、連携しながら取り組む必要があります。

そこで発揮されるのが、名古屋記念病院ならではの、医師、看護師、臨床工学技士等の職員の距離の近さ（物理的にも!）、それに起因するチーム力です。

チーム力を発揮した結果、導入から1年未満で100例をこなすことができました。

これからも地域により安全で優しい手術を提供できる体制を整えてまいります。

ダビンチのトレーニング

ダビンチ手術は、認定資格を取得し、トレーニングを積んだ医師によって行われます。認定は「執刀をする医師」と「助手をする医師」の2種類となります。

研修と訓練施設でのトレーニングを積んだのち、認定されることとなります。

英語表記では

「執刀をする医師」= da Vinci Xi Certification/Console Surgeon

「助手をする医師」= da Vinci Xi Certification/First Assistant

となり、なんだか格好いい感じになります。

当院の認定医師（2024年3月現在）

- da Vinci Xi Certification/Console Surgeon

外科2名、産婦人科2名、泌尿器科2名

- da Vinci Xi Certification/First Assistant

外科2名、産婦人科3名、臨床研修医1名

病院として、若手医師に対しても、資格取得を積極的に応援する体制があります。

ハード面、人材育成面も含め、地域の方に高度な手術を提供できる体制づくりに力を入れています。

医師を支えるスタッフ

医師だけでは、手術は実施できません。看護師や臨床工学技士も、他病院へ見学へ行ったり、シミュレーションを繰り返して、トレーニングを積んでいます。

外科 宇田低侵襲手術科長の手術が第124回日本外科学会定期学術集会の企業展示ブースで取り上げられました。

2024年4月18～4月20日に開催された第124回日本外科学会定期学術集会の企業展示ブースで外科宇田医師の手術動画が展示されました。

2023年5月30日に稼働を開始した消化器外科のダビンチ手術ですが、2024年3月31日までで、結腸・直腸癌の患者さんに対して59の手術を施行しています。そのうち短期間のうちに57の手術を担当した宇田医師の症例数は近隣病院と比較しても多く、各企業からも注目を浴びています。

今回は自動縫合器（胃腸を切離吻合する器械）の企業から、宇田医師が普段施行しているロボット支援下手術における体腔内デルタ吻合再建（従来は腹腔外で行っていた腸管の切離吻合を腹腔内で行うことにより手術創部の縮小化を図ることができ、より患者さんに優しい手術が可能となりますが、特殊な技術が必要です。）の手術動画が展示されました。このように当院で施行している手術手技を発表する活動も積極的に行っています。



おしえてせんせい！



外科 宇田 低侵襲手術科長

2023年5月30日に稼働を開始して、2024年5月末現在68人の方に手術を受けていただきました。このうち直腸癌は30例、結腸癌は38例となります。この数は周辺病院と比較しても多い数となっています。比較的短期間に多くの患者さんに手術をお受けいただきましたので、執刀外科医のみならず、手術室看護師、臨床工学士などスタッフの技術向上や安定が図られ、皆様に安全に手術を受けいただける環境が整ったと思われます。また、従来取り組んでいた開腹手術や腹腔鏡手術と比較して在院日数は短縮しており、手術を受けられてから早期の社会復帰が可能となっています。また、麻酔科医師や手術室スタッフ、他科医師との連携が柔軟で、比較的進行した病変の方や、早期の手術をご希望される方は、準緊急枠での早期の手術対応も可能となっており、診断から手術までスムーズに治療をお受けいただくことができます。外来での手術説明時より、がん専門認定看護師の同席があり、入院後も専門的なサポートをお受けいただけます。このように、当科では一層ロボット支援下手術に力を入れ、患者様に負担の少ない手術を受けいただけるようスタッフ一同協力して頑張っています。

産婦人科では、子宮の良性疾患に対して、ダビンチを用いた手術を実施しています。

代表的な婦人科良性疾患として、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症などがあります。これまでの良性の手術でも低侵襲な腹腔鏡下での手術を多く実施していました。術後回復が早く、入院期間や療養期間が比較的短く、忙しい女性にとっても選択しやすい術式です。

ダビンチの導入により、より安全で低侵襲な手術を追求しています。



産婦人科 廣中 部長



泌尿器科 西野 部長

泌尿器科では、前立腺癌に対する、ダビンチを用いた腹腔鏡下手術（ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術）が普及してまいりました。前立腺癌は現在、日本人男性が罹患する癌の中で罹患率が1位となっており、注目されていますが、これまでに行っていた開創下での前立腺全摘除術（腹部に大きな切開をして、前立腺を取り出す方法）よりも、低侵襲で出血も少なくすることができます。当院では、これまでも、積極的に前立腺生検を行い、前立腺癌と診断され、手術をご希望された方に対しては、適切な治療が受けられる様に、高次医療機関と連携し紹介させていただいていました。これまでは、高次医療機関への受診に際して、患者さんに交通の利便性等でご不便をおかけしておりましたが、2023年7月より、手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始し、当院でも手術を希望された患者様のご要望にこたえられる体制を整えることができました。当科では、診断から手術まで、地域の皆様に寄り添う治療体制をさらに強化・構築していきたいと考えております。現在、前立腺癌に対するロボット支援治療を希望される患者様が増えており、藤田医科大学腎泌尿器外科教室とも連携しながら、安全で低侵襲な治療が提供できるよう、日々努力してまいります。